

保養で元気に!



南房総市の海岸で風あげ



「保養は風評被害をあおるからやめろ」——そんな心無い言葉が飛び交う福島の実状。そうした現実に向け、被曝の実状をも否定し、東電や国に対する責任追及にではなく、「(福島県民が)しあわせになるため」と、保養や避難者に攻撃の矛先を向ける悲しい本が出版されました。なにより執筆者たちの心根の貧しさがかなしく、あわれです。保養は大切なことです。「原発なくせ!ちばアクション」の冬休み保養の報告集から感想文をダイジェストで紹介します。

まだ不安は絶えない

いま福島では震災当時のことは話せても、原発のことや放射線のことは話づらくなっています。震災から7年が経過し、原発事故のことはなかったかのような風潮ができつつあります。しかし、健康面や将来への影響など、心配や不安は絶えません。『保養』という場はまだ必要です。心の拠り所です。

強い気持ち必要

私は精神面でのリフレッシュや安心を保養に来ることでえられます。実際、大多数の人間の関心がなくなり、国からも見放されているような状況のなか、強い気持ちを保ち続け、意志を貫くのはとても難しく勇気がいります。そして、とても疲れます。

子どもたちの学習の場

県や国は子どもたちに「原発は必要なものだ」「放射線は安全なんだ」と学校で教え込んでいます。健康被害なんてないんだという間違った考え方をすり込もうとしています。保養に参加している子どもたちは、少なくとも原発・放射能に対して安全だとは思っていません。保養は学習の場みたいなものです。

子どもにできることを

福島に住んでいくことを決めた時、私は私たち親のせいで福島に住んでいかなければいけない息子に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。その代わり、私たちができることをめいっぱいやろうと決めました。水も食べ物も保養も…。本来、みんなが保養できればいいのにと私は思います。

継続する思いに感謝

福島で生活していると、不安や心の内を話すことすらできません。そんななか、数少ない心の拠り所のひとつが「保養」です。多くの団体が保養の継続が難しいなか、このように夏と冬の年2回の保養を継続していただいていることに、心より感謝いたします。

自分たちで子どもを守る

私の周囲でも甲状腺を手術した子どもや白血病で亡くなった子どもがいます。国も県も子どもたちを守ってくれない以上、自分たちで守るしかありません。

何も解決していない

去年はまだペットボトルの水ですごしていること、福島県産品を食べない判断をしている我が家に「いまだにやってるの」「じゃあ福島から出て行けばいいのに」という冷たい言葉を浴びせられたこともありました。線量は下がってきてはいますが、根本的には何も解決されていません。だから、心配も消えません。

福島を想ってくれる

保養には事故後すぐから出ていました。金銭面だけではなく、福島の子を想ってくれる、心の支えは親にとってとても大きいです。

編集後記

アメリカのトランプ大統領が「核戦略の見直し」を発表し、小型核兵器の使用や先制核攻撃に踏み出そうとしています。真っ先にこれを支持したのが、「被爆国日本」の安倍政権です。原発事故をなかったことにして、核戦争まで始めようとするなど絶対にさせてはなりません。7年目の3・11、福島から「改憲と核戦争をとめよう」の声をあげましょう!(え)

福島から改憲・戦争を止めよう
原発・オリンピックを打ち砕こう

3・11反原発福島行動'18

日時：3月11日(日) 13時～

場所：郡山市民文化センター大ホール

主催：3・11反原発福島行動実行委員会



ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信 - KOKOTU -

第20号 季刊・冬・春号-

診療時間：9：30-12：30/14：30-18：00

	土	日	月	火	水	木	金
午前	●	●	●	●	-	●	●
午後	●	●	-	●	-	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科

〒960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

学校検診の打ち切りに反対しましょう

原発事故後、県民からの要請で2011年10月から始まった甲状腺エコー検査ですが、一昨年から急速に縮小・廃止の動きが強まっています。保護者を中心に危機感が高まり、郡山市の住民団体が「甲状腺検査の維持」を県議会に請願、2016年10月13日に全会一致で採択されました。私たちが呼びかけた「甲状腺検査の継続と拡充」などを求める署名も現在4万8千筆を超えています。しかし同年12月9日には、ミスター100ミリシーベルトと異名をとった山下俊一氏らが「甲状腺エコー検査は自主参加であるべき」と内堀県知事に提言しました。また、本年1月11日には原子力政策推進の立場である国際がん研究機関(IARC)の「原発事故後の甲状腺検査のあり方を検討する専門家グループ」が、県の機関である県民健康調査検討委員との意見交換会で「早期発見・早期治療にメリットはない」と発言しました。この4月にも、甲状腺検査縮小に向けた提言を出そうとしています。

昨年12月25日に開催された検討委員会(2面に詳報)につづき、本年1月26日に行われた甲状腺評価部会では、大阪大学の祖父江孝委員が「甲状腺検査の不利益についてもう少し踏み込む必要がある」と述べ、高野徹委員は、現在の甲状腺検査は「医学倫理からはみ出している」、「甲状腺検査のメリット・デメリットに関してほとんど対象者に伝わっていない」として検査同意書の見直しを提言。また「学校検診という形で、強制力を持って検査が行われている。これは子どもの

人権問題」と、甲状腺検査が子どもの人権を踏みにする行為とまで述べています。さらに国際医療福祉大学クリニック院長の鈴木元部会長は「症例の把握ということが、がん登録事業である程度カバーされるのであれば、検診のカバー率をそれ程心配する必要もない」と、甲状腺検査は必要ないとしています。

ベラルーシ共和国の甲状腺学の第一人者であるユーリ・デミチュク医師は、「子どもの甲状腺がんは、リンパ節転移する確率が高いのが特徴。ベラルーシ共和国で手術せず様子を見た例と、手術をした例とでは、子どもの寿命は格段に違った。手術すれば、ほとんどの場合、高齢者になるまで健康に生きることができる」「見つけないでいいがんを見つけた、なんて言うてはいけない。見つけたがんは必ず手術した方がいい。数年経過を見たこともある。すると、次にする手術は大きな手術になった」「だから、見つけたがんはすぐに手術をした方がいい。それが30年間チェルノブイリで甲状腺がんと闘ってきた自分の考えだ」と述べています(『ここから通信』17号に既報)。

広島、長崎の原爆被害者には戦後73年経過した現在でも被爆手帳が交付され、毎年検診を無料で受けています。1986年に原発事故を起こし多くの甲状腺がんが発生したチェルノブイリでは、32年経過した今でも甲状腺検査を続けています。甲状腺検査を受け続けることが大切です。

ふくしま共同診療所 院長 布施幸彦

大人も子どもも甲状腺エコー検査を受けましょう

検査日	土	日	月	木	金
午前 9:30-12:30	○ ♡	○	○	○	○
午後 2:30-18:00	○ ♡	○	-	-	○

○→甲状腺エコー

♡→乳腺エコー

乳腺エコー検査は
女性が担当します。

お問い合わせ・ご予約はお電話でどうぞ→ 024-573-9335

被曝と帰還の強制反対署名にご協力お願いします
要求項目が実現されるまで、この署名は続きます

署名数 48,021筆
(2月8日現在)

署名用紙は当院のホームページからダウンロードできます。
「ふくしま共同診療所」で検索してください。
お電話でもお問い合わせ下さい。

